

# わんにゃん通信6月号



担当田代

『フィラリア予防はいつからいつまで与えるか期間や時期を解説！』

## 犬のフィラリア症とは？



蚊が媒介する代表的な犬の病気です。フィラリア(=犬糸状虫)が肺動脈や心臓に寄生することにより発症します。

## 予防薬を使うタイミング



いつから予防薬を使えばいいのか？という疑問に対してですが、これに関する目安は以下の通り。

【蚊の吸血活動】

5月～11月★

【予防薬投与】

6月～12月★

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
■	■	■	■	■	■	■	
	■	■	■	■	■	■	■

## なぜ1ヶ月のタイムラグが必要なのか？

上記の期間を見てわかる通り、予防薬の投与期間は蚊の吸血活動から1ヶ月遅れになっています。

普通に考えれば、「**フィラリアが発生する前に予防薬を投与するのでは？**」と思うかもしれません、これには理由があります。

フィラリアの寄生虫(幼虫)が体内に入り込むと、おおよそ3～10日程度の期間を経て幼虫が脱皮します。

ほとんどのフィラリア予防薬においては、**この脱皮した状態の移行幼虫の期間に駆除する事ができる**ので、そのタイミングを狙って予防薬を投与するというわけです！

逆に、この期間を逃してしまうと幼虫が成虫になって薬の効果が弱まり、フィラリアが体内でどんどん成長してしまうので注意が必要です。寒くなって蚊を見なくなるとつい忘れるかもしれません、**特に最後の12月の投与が最も大切です。**

途中でやめないでね！！



## 投与する薬の種類について

フィラリアの予防だけ  
ご希望

チュアフル



ノミやダニも一緒に  
駆虫したい方

ネクスガード  
スペクトラ



飲み薬を飲んでくれない  
飲ませられない方

背中に垂らすだけ！  
アドボケート



★1回の投与で1年間の予防が可能なプロハート（注射）もあります。

## ♥恵子先生のコラム♥

薩摩の西郷隆盛さんもヒトのフィラリア症だったという話はご存じでしょうか？犬のフィラリアは血管内に寄生し最終的には心臓の肺動脈に寄生しますが、西郷さんのフィラリア症はリンパ管に寄生し下半身が腫れて象の皮膚のように厚くなるので象皮病とも呼ばれていたそうです。ノーベル医学生理学賞を受賞された大村智先生が発見されたイベルメクチンのおかげで近年はフィラリアは怖い病気ではなくなりつつありますが、いまだに犬のフィラリア症で苦しんでいる犬は少なからずいるのが現状です。

フィラリアは予防が一番です。猫ちゃんもごくまれではあります BUT 犬のフィラリア症に感染することがありますので、外で遊ぶネコちゃんは予防してあげてください。

